

GXを東京から推進する「TOKYO GX ACTION」の一環で 日産自動車による出張授業を開催 「日産わくわくエコスクール」

特設サイト URL : tokyo-gx-action.jp

東京都は、2030年のカーボンハーフ、2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、化石燃料からクリーンエネルギー中心の社会へと転換するGX(グリーントランスフォーメーション)の取り組みを加速させていきます。都民一人ひとりがGXを理解し、行動を変えていくことを目指す東京都のプロジェクト「TOKYO GX ACTION」の一環として、2025年3月18日(火)、東京都板橋区の板橋区立緑小学校で、日産自動車による出張授業が開催されました。本授業には5年の約45人が参加。授業は講演・ワークショップ・電気自動車への試乗で構成され、児童たちは走行中に二酸化炭素(CO₂)を排出しない電気自動車の特長を学び、振動の少なさと静かな走行音を体感しました。



〈授業の目的〉

本授業は「TOKYO GX ACTION」の一環として、次代を担う若い世代に身近なテーマで楽しみながらGXに関連する取り組みを知ってもらうことを目的として行われました。日産自動車は「人とクルマと自然の共生」を目指

し、電気自動車の開発や生産に取り組んでいます。授業では第一製品開発本部の宮田啓さんを講師に招きました。宮田さんは「CO₂ゼロへの挑戦」と題して講演し、電気自動車の性能や特長を紹介。電気自動車は災害などで停電が発生した際の非常用電源としても活用できることを解説しました。続いて行われたワークショップでは、モデルカー（模型）を組み立て、電気自動車動く仕組みを学びました。その後、児童たちは電気自動車「日産リーフ」を試乗しました。

〈講演〉

宮田さんは講演の中で、CO₂の増加が地球温暖化を引き起こし、異常気象や海水面の上昇が起きていると解説。ガソリン自動車とは異なり、電気自動車は電気でもーターを回すため、走行中にCO₂が出ないと説明しました。また、電気自動車であれば昼間の太陽光などで電気を貯めておくことができ、外部からの電気供給がない時であっても、非常用の電源として使うことができると語りました。2024年1月に発生した能登半島地震では、電気自動車を通じて避難所に電気を届けたことを紹介すると、児童からは「すごい」と感嘆の声が上がりました。



〈ワークショップ〉

講演の後、日産自動車の社員らのアドバイスを受けながら、児童は日産リーフの模型を組み立てるワークショップに挑戦。小型の発電機を手回しすることで電気を発生させ、車の模型を動かしました。児童たちは「発電機をいっぱい回した方が遠くまで走りそう。やってみよう」などと目を輝かせながら、モビリティ社会を疑似体験しました。また、自動車の模型と家型の模型を繋ぐことで、車側で貯めた力が家側に給電され、家の照明やテレビがつけられることを学びました。



〈電気自動車の試乗〉

最後は校庭に集まり、日産リーの試乗を体験しました。電気自動車は温暖化の原因となるCO₂を排出せず、振動や騒音も少ないのが特長です。電気自動車であればエンジン音がしないことを確認したり、普通用と急速用の二つの充電口があることを発見したりしました。車内のナビ画面には、電気自動車を充電できる場所が表示され、児童は「思ったよりもたくさん充電できる場所がある」と興味を示していました。

試乗を待つ間には、日産自動車の社員から自然界で葉が大気を浄化するように、走行中の排ガスをなくすという意味で、英語で「葉」を意味するリーフという名前が付けられたことを聞きました。



〈授業に参加した児童の反応〉

講演中、児童たちは真剣な表情で宮田さんの話に耳を傾け、元気よくクイズに答えるなどして楽しみながら学びを深めました。児童の一人は「ガソリン自動車と比べて音がしないのに、同じくらい速くてカッコいい。また電気自動車に乗ってみたい」と授業の感想を語りました。多くの児童が出張授業を通じて、電気自動車を使うことでCO₂の排出をなくし、地球温暖化の進行を食い止めていく重要性を実感した様子でした。

『TOKYO GX ACTION』公式ホームページ/SNS アカウント

公式ホームページ



X



Instagram



<https://tokyo-gx-action.jp>

〈本イベントに関するお問い合わせ先〉

TOKYO GX ACTION 広報事務局（プラチナム内）担当：今野
TEL：03-5572-6071 MAIL：tokyo_gx_action_pr@vectorinc.co.jp